

ニュース・レター

No. 39 2017年1月

目次

理事長挨拶	1頁
2016年度総会議事録	3頁
2016年度総会・研究会報告	8頁
2015年度日本選挙学会賞	14頁
『選挙研究』目次	15頁
各委員会からのお知らせ	18頁
理事会議事録	22頁
事務局だより	32頁

日本選挙学会の現状と課題

河野 武司

日本選挙学会が設立されたのは1981年10月であるが、その年の4月に大学院に入学した私は、指導教授の堀江湛先生の勧めもあって日本選挙学会の末席に加えていただいた。今日でその会員歴は選挙学会の歴史と共に35年になろうとしている。私の研究者としての年月は、選挙学会と共にあったと言っても過言ではない。その間、日本選挙学会の事務局長を、芹澤功、蒲島郁夫、小林良彰の3理事長の下で、8年ほど務めさせていただいたが、よもや私が理事長の大任を仰せつかるとは思ってもみなかった。今は身の引き締まる思いで一杯である。

私が事務局長を務めた時期には、会員数も増加傾向にあり、またありがたいことに櫻田会や科研費からの助成も頂戴し続けることができ、一般会計から年報発行積立金への繰り入れを行いつつも、毎年次年度への繰越金が増加していくという恵まれた状況にあった。学会の財政について心配する必要はまったくなかったのである。小林理事長の時代には、余裕のある学会財政をベースに、『選挙研究』の発行の年2回化、さらには『選挙学会紀要』の新設といった方策によって、会員の研究発表の機会を増やし、会員にとってより魅力のある選挙学会の将来を構想できた。

しかし、現状は厳しい。少子高齢化や当時には存在していなかった他の多くの学会の新

設等によって、新入会員やトータルの会員数も減少傾向にある。それだけではなく、今まで助成を受けていた科研費の項目がなくなったことから、科研費からの助成を受けることができなくなり、次年度への繰越金も減少傾向にある。もちろん今すぐ選挙学会が財政的に立ち行かなくなるということはないし、財政の立て直し自体もそんなに難しいことではない。現在選挙学会が行っている様々な事業を見直し、仕分けしていくことでその経費の削減を行えば良い。しかし、それだけでは、選挙学会の魅力は低下し、縮小均衡に陥ってしまう。支出の見直しを行いつつ、同時に新機軸を打ち出すことで、選挙学会に入会したいと思う若手研究者にアピールして、会員数の増加を図っていくことが重要であろう。困難ではあるが是非とも成し遂げなければならない使命であると今期の理事会は強く認識している。学会将来構想検討委員会の設置は、その強い決意の表れであると会員の皆様にはご理解いただきたい。しかし、理事会の検討だけではコンパクトではあるが魅力のある学会を作り上げていくことは難しい。研究大会への参加だけでなく、様々な意見やアイデアを事務局にお寄せいただくなど、現在の会員の皆様のより積極的な参加を希望して止まない。

(このたけし・慶應義塾大学教授)

[目次へ](#)

2016年度総会議事録

日 時：2016年5月14日（土） 17時45分～18時30分

場 所：日本大学法学部 10号館 1011講堂

議題

1. 理事長挨拶

岩淵理事長より挨拶があった。岩淵理事長より岩崎事務局長を議長に選出することで承認された。

2. 開催校挨拶

吉野 2016年度大会委員長から挨拶、および同大会の進行状況に関する説明があった。

3. 各委員会活動報告

■ 企画委員会

浅野（和）2016年度企画委員長より同大会企画趣旨についての説明があった。

■ 年報編集委員会

河崎 2015年度年報編集委員長より、『選挙研究』第31巻1号・2号の刊行について報告があった。

前田 2016年度年報編集委員長より、『選挙研究』第32巻1号・2号の内容および編集の方針について報告があった。

また、査読プロセスに要する期間を HP 上に明示したこと、『選挙研究』の執筆要綱の改定を行ったことが報告された。

■ 選挙管理委員会

三船（代読：岩崎事務局長）選挙管理委員長より、2015年に行われた理事選挙の結果、議題7の表の通り、公選理事が選出されたとの報告があった。

■ 査読委員会

浅野（正）2015年度査読委員長より、同委員会活動状況に関する報告があった。

小西 2016年度査読委員長より、同委員会の今後の活動状況に関して説明があった。

■ 国際化委員会

日野（代読：岩崎事務局長）国際化委員長より、2015年度海外学会報告奨励費および国際共同研究奨励費の選考結果について報告があった。

■ 学会賞選考委員会

森脇学会賞選考委員長より、2015年度学会賞各賞の選考結果について報告があった。

4. 2015年度決算・監査報告

岩崎事務局長より、2015年度の決算報告、竹下俊郎・安野智子両監事より監査報告がなされたのち、同決算が承認された。

5. 2016年度予算案について

岩崎事務局長から 2016年度予算案について説明がなされた。2016年度に計上される予定であった、委員会返却金は繰越金の項目に振替えることが提案された。また、年会費収入は、当該年度に理事選挙が予定されていないことから、若干低めの額を計上したことが

報告された。

支出に関しては、各種委員会から返却金が多かったことを鑑み、委員会予算の削減が提案されたのち、同予算案が承認された。

6. 2017 年度総会・研究会の開催について（香川大学）

堤理事より 2017 年度総会・研究会を香川大学で行う旨が報告された。

7. 2016-17 年度理事・監事候補について

岩崎事務局長より、2016 - 17 年度理事・監事候補（下表）について説明があり、全員が承認された。

【公選理事】	浅野 和生	池谷 知明	井田 正道	岩崎 正洋
遠藤 晶久	岡田 浩	奥 健太郎	河崎 健	川戸 恵子
河野 武司	小西 徳應	坂本 健蔵	品田 裕	竹中 佳彦
堤 英敬	西川 賢	前田 幸男	三船 毅	森 裕城
山田 真裕	【推薦理事】	浅野 正彦	河村 和徳	名取 良太
森 正	安野 智子	湯浅 壘道		
【監事】	粕谷 祐子	高安 健将		

8. 次期理事長候補挨拶

岩崎事務局長より、次期理事長候補者選出会議の結果、河野武司理事を新理事長として推挙する提案がなされ、承認された。

引き続き、河野新理事長より挨拶があった。

9. 各委員会委員長候補・事務局長候補紹介

河野理事長より、各委員会新委員長・新事務局長・事務局幹事（下表）について、提案があり、承認された。

なお、学会賞選考委員長については、公平性を担保するために非公表とすることが報告された。

理事長:河野武司（慶應義塾大学） 2017 年度企画委員長：井田正道（明治大学） 2018 年度企画委員長：竹中佳彦（筑波大学） 2017 年度編集委員長：三船毅（中央大学） 2018 年度編集委員長：岡田浩（金沢大学） 2016 年度国際化委員長：安野智子（中央大学） 2017 年度国際化委員長：西川賢（津田塾大学） 選挙管理委員長：坂本健蔵（平成国際大学）	2016 年度学会賞選考委員長：西澤由隆（同志社大学） 2016 年度査読委員長：小西徳應（明治大学） 2017 年度開催校：堤英敬（香川大学） 2018 年度開催校：浅野正彦（拓殖大学） 学会将来構想検討委員会 A：山田真裕（関西学院大学） 学会将来構想検討委員会 B：名取良太（関西大学）
監事：高安健将（成蹊大学）	粕谷祐子（慶應義塾大学）
事務局長：岩崎正洋（日本大学） 事務局幹事：荒井祐介（京都大学） 小林哲郎（香港城市大学） 横山智哉（一橋大学）	岡田陽介（立教大学） 三澤真明（日本大学）

10. その他

岩崎事務局長より、最近の会員数について報告があった。

以上

2015 年度 決算報告

収 入		支 出	
項目	金額	項目	金額
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	3,967,517	総会・研究会費	0
寄付（櫻田会）	1,400,000	委員会・事務局活動費	1,070,415
会費等（含、バックナンバー販売）	3,626,000	通信費	246,016
利子	437	ウェブサイト作成・開発費	194,184
委員会活動費返却分	417,445	学生アルバイト費（謝金）	40,000
		国際交流費	300,000
		学会賞賛金	150,000
		印刷費	3,095,145
		文具費	37,972
		雑費	95,082
		次年度への繰越金	4,182,585
合 計	9,411,399	合 計	9,411,399

年報発行準備金

収 入		支 出	
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	10,257,462	次年度への繰越金	10,259,146
利息	1,684		
合 計	10,259,146	合 計	10,259,146

2016 年度 予算案

収 入		支 出	
項目	金額	項目	金額
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	4,182,585	総会・研究会	500,000
寄付（櫻田会）	1,400,000	委員会・事務局活動費	550,000
年会費	2,600,000	通信費	250,000
利子	500	ウェブサイト作成・開発費	200,000
		謝金	50,000
		国際交流費	500,000
		学会賞賞金	150,000
		印刷費	3,200,000
		文具代	30,000
		雑費	50,000
		次年度へ繰越金	2,703,085
合 計	8,183,085	合 計	8,183,085

年報発行準備金

収 入		支 出	
項目	金額	項目	金額
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	10,259,146	次年度への繰越金	10,260,646
利息	1,500		
合 計	10,260,646	合 計	10,260,646

[目次へ](#)

2016年度総会・研究会報告

2016年度日本選挙学会総会ならびに研究会は、2016年5月14日（土）・15日（日）に日本大学法学部で開催されました。

【第1日】 5月14日（土）

◆分科会 A・B・C（10:00～12:00）

◇分科会 A（政策部会）：政党と政策研究のフロンティア

【司会者】水戸克典（日本大学）

【報告者】河崎 健（上智大学）

「ドイツの政党と政策研究」

富崎 隆（駒澤大学）

「イギリスの政党と政策」

増田 正（高崎経済大学）

「フランスの政党と政策形成」

【討論者】池谷知明（早稲田大学）・永山博之（広島大学）

◇分科会 B（制度部会 1）：民族独立とレファレンダム

【司会者】井田正道（明治大学）

【報告者】渡辺容一郎（日本大学）

「イギリス型レファレンダムについて：

党内政治と保守主義の見地から」

末澤恵美（平成国際大学）

「民族の独立とレファレンダムークリミアの事例ー」

浅野和生（平成国際大学）、Ching-Hsin Yu (National Chengchi University)

「議会における与野党対決の代替としての台湾の『公民投票』」

【討論者】河村和徳（東北大学）

◇分科会 C（社会心理部会 1）：メディアに対する信頼

【司会者】小林哲郎（香港城市大学）

【報告者】稲増一憲（関西学院大学）、三浦麻子（関西学院大学）

「システム・アクター・情報としてのマスメディア信頼：

一般的信頼、メディア接触、党派性との関連から」

安野智子（中央大学）

「メディアと民主主義への期待と不信」

萩原 豊（TBS）

「テレビ報道と権力」

【討論者】前田幸男（東京大学）・竹下俊郎（明治大学）

◆理事会 (12:05~12:55)

◆分科会 D・E・F (13:00~15:00)

◇分科会 D (方法論部会) : 選挙研究における因果推論

【司会者】谷口尚子 (慶應義塾大学)

【報告者】福元健太郎 (学習院大学)

「Gender Gap in Voter Turnout by Moon Age: A Circular Data Analysis」

浜中新吾 (龍谷大学)

「阻止条項をめぐるエスノポリティックス」

原田勝孝 (福岡大学) Smith, M. Daniel (Harvard University)

「The Role of Government Fiscal Transfers on Crime

-An instrumental variable approach」

【討論者】飯田 健 (同志社大学)・山田恭平 (国際大学)

◇分科会 E (地方部会) : 大阪都構想とは何だったのか

【司会者】石上泰州 (平成国際大学)

【報告者】牛山久仁彦 (明治大学)

「特別区の制度と政治」

辻 陽 (近畿大学)

「『大阪維新の会』と議会運営—分割政府比較の観点から—」

善教将大 (関西学院大学)、宋財滋 (神戸大学大学院)

「都構想の何が支持されたのか :

コンジョイント分析による政策選好の推定」

【討論者】名取良太 (関西大学)・砂原庸介 (神戸大学)

◇分科会 F (比較政治部会 1) : 変化する台湾の民意—2016 年総統・立法院同日選挙—

【司会者】西川 賢 (津田塾大学)

【報告者】Eric Chen-hua Yu (National Chengchi University),

Chao-Chi Lin (National Chengchi University)

Ching-hsin Yu (National Chengchi University)

Chia-hung Tsai (National Chengchi University)

「Analyzing Candidate Selection Methods

in Taiwan's Major Political Parties」

Su-feng Cheng (N C U), Kuang-hui Chen (National Chung Cheng University),

Wan-ying Yang (N C U)

「Sensibility and Rationality of Identity in Taiwan」

Kah-Yew Lim (N C U), Chi Huang (N C U), Ching-hsin Yu (N C U)

「Assessment of Cross-Strait Policy and Voting Choices

in Taiwan's 2016 Presidential Election」

Ying-Lung Chou (Tamkang University), Ching-hsin Yu (N C U)

「The Impact of Social Context on Voting Behavior

in Taiwan's 2016 Presidential Election」

【討論者】石生義人（国際基督教大学）、梅田道生（愛媛大学）、
John F. HSIEH (University of South Carolina)

◆共通論題（15:15～17:45）

◇共通論題：「18歳選挙権実施を前にして—その影響と対応—」

【司会者】岩淵美克（日本大学）

【報告者】牧之内隆久（明るい選挙推進協会理事長）

「18歳選挙権と主権者教育を巡る問題」

五嶋清（産経新聞編集局総務・前政治部長）

「18歳選挙権をめぐる各政党の分析と若者へのアプローチ」

大塚功祐（千葉県立おおたかの森高校）

「高校生への主権者教育の実践」

林大介（東洋大学）

「18歳選挙権と政治教育・選挙教育における現状と課題の考察」

【討論者】川人貞史（東京大学）・小林良彰（慶應義塾大学）

◆総会（17:45～18:30）

◆懇親会（19:00～）

【第2日】5月15日（日）

◆分科会 G・H・I・J（9:30～11:30）

◇分科会 G（比較政治部会 2）：民族性と政治行動、その社会経済的帰結

【司会者】浅羽祐樹（新潟県立大学）

【報告者】中井遼（立教大学）

「選挙戦，政治意識，民族性：ラトヴィア 2014 年国政選の DD 分析」

石黒大岳（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

「クウェート議会選挙における部族集団の投票行動と分配政治」

鈴木絢女（同志社大学）

「一党優位体制とその後：

マレーシアにおける政策争点をめぐる選挙と財政」

【討論者】建林正彦（京都大学）・鎌原勇太（横浜国立大学）

◇分科会 H（制度部会 2）：選挙制度と投票

【司会者】玉井清（慶應義塾大学）

【報告者】久保浩樹（ライス大）

「Intra-Party Dynamics and Preferences for Electoral System
Change in JAPAN」

茨木 瞬（東北大学）

「投票時間短縮がもたらす影響に関する一考察」

梅田道生（愛媛大学）

「参院選地方区の不均一な選挙制度が政党の
有権者接触・動員活動に与える影響」

【討論者】竹中佳彦（筑波大学）・森 裕城（同志社大学）

◇分科会 I（歴史部会）：大戦前後の議会と選挙

【司 会】小南浩一（兵庫教育大学）

【報告者】玉木寛輝（慶應義塾大学）

「昭和戦前・戦中期における在郷軍人の政治化と相克」

吉田龍太郎（慶應義塾大学）

「戦後の選挙運動に対する芦田均の取り組み」

竹内 桂（明治大学）

「三木武夫の選挙戦と支持基盤」

【討論者】加地直紀（平成国際大学）

◇分科会 J（社会心理部会 2）：現代政治とメディア

【司会者】稲増一憲（関西学院大学）

【報告者】細貝 亮（世論総合研究所）

「メディアの選択制に着目した補強効果の検証」

前嶋和弘（上智大学）

「アメリカの選挙とメディア：急変する選挙戦術と今後」

前田幸男（東京大学）、平野浩（学習院大学）

「マスメディアにおける首相報道の分析」

【討論者】逢阪 巖（立教大学）・今井亮佑（早稲田大学）

◆分科会 K（12：30～14：30）

◇分科会 K（ポスターセッション）：選挙研究のフロンティア

①山田尚武（日本大学）

「ポスト 55 年体制における政治とマスメディア ―読売 新聞社説の内容分析―」

②三輪洋文（学習院大学）

「Twitter データによる日本の政治家・言論人のイデオロギー位置の推定」

③田中智和（上宮高等学校）

「18 歳選挙権を考える―現場報告と高 3 政治知識・意識調査から―」

④李 柱卿（法政大学）

「自民党中央における政策変更と地方組織の役割」

- ⑤中村悦大（愛媛大学）
「IRT による政治的知識水準の指標化と分析」
- ⑥星健太郎（早稲田大学）
「ランニングを考慮した日本国全議員選挙データベース構築考察」
- ⑦粕谷祐子（慶應義塾大学）
「Malapportionment and Democracy: A Curvilinear Relationship」
- ⑧小林哲郎（香港城市大学）、横山智哉（一橋大学）
「政党キューとリーダーキュー：サーベイ実験による比較」
- ⑨葉山 明（日本大学）
「平成 26 年 4 月 12 日執行の相模原市議会議員選挙において、0.661 票差で小林丈人候補を当選とした当初の判断が取消され、大槻和弘候補を 0.340 票で逆転当選とした神奈川県選挙管理委員会の裁決が、東京高裁で支持されて事案について、候補者の氏のみが自書された票の按分加算を規定する公選法 68 条の 2 についての考察と私見」
- ⑩竹本圭佑（日本学術振興会）
「コミュニケーション行動と報道認知・世論の推測の関係：
荒川区社会調査結果から」
- ⑪内山卓也（慶應義塾大学）
「合理的な非合理性—候補者の外見が有権者の投票行動に及ぼす影響について—」
- ⑫小野恵子（国際基督教大学）
「米大統領支持率に見られる党派による差の拡大：
GW ブッシュとオバマ政権から見えるもの」
- ⑬三村憲弘（武蔵野大学）、深谷健（武蔵野大学）
「高校生への政治教育を実験する
～大学と行政との連携プロジェクトを通じて～」
- ⑭小椋郁馬（東京大学）
「米国の選挙における候補者戦略：広告データを用いた研究」

◆分科会 L・M・N（14:30～16:30）

◇分科会 L（社会心理部会 3）：世論の諸相

【司会者】西澤由隆（同志社大学）

【報告者】池田謙一（同志社大学）

「A latitude theory of attitude toward political party support and meaningful choice: Analyses from Japanese elections from 1996 to 2013」

木村高宏（金沢大学）

「『小さな政府』志向の検討」

境家史郎（首都大学東京）

「政党間イデオロギー差異と投票参加行動に関する国際比較分析」

【討論者】山田真裕（関西学院大学）・岡田陽介（立教大学）

◇分科会 M (自由論題 1)

【司会者】堤 英教 (香川大学)

【報告者】澁谷壮紀 (東京工業大学)、谷口尚子 (慶應義塾大学)、
Chris Whinkler (北海道大学)

「『中位投票者』の変動に関する国際比較

—政党公約データを用いたパネルデータ分析—

勝又裕斗 (東京大学)、堀内勇作 (Dartmouth College)、

鹿毛利枝子 (東京大学)

「Political Connected Firms in Japan: A Preliminary Analysis」

秦 正樹 (関西大学)、横山智也 (一橋大学)

「『政治』の何がタブーなのか? : 政治的会話の継続性と断絶性の条件」

【討論者】河野武司 (慶應義塾大学)

◇分科会 N (自由論題 2)

【司会者】小西徳應 (明治大学)

【報告者】白崎 護 (関西外国語大学)

「公職選挙法改正への期待におよぼすインターネット利用の影響」

上岡 敦 (日本大学)

「1958 年国会法改正をめぐる政治過程」

【討論者】奥健太郎 (東海大学)・遠藤晶久 (高知大学)

[目次へ](#)

2015 年度日本選挙学会賞

日本選挙学会賞は、会員相互の研究交流の促進と広い意味での選挙研究の発展を目的として 2009 年度に創設されました。学会賞には、研究会のポスターセッションにおける会員の優れた研究発表を対象とする「優秀ポスター」、研究会における会員の優れた論文報告を対象とする「優秀報告」、『選挙研究』に掲載された会員の優れた投稿論文を対象とする「優秀論文」、の 3 つの賞が設けられています。

2015 年度の受賞者は次のとおりです。

【優秀論文】

堀田敬介（文教大学）

「合区および総定数変化に対する議席配分最適化」

【優秀報告】

秦正樹（神戸大学大学院）

「非有権者における政治関心の形成メカニズム——政治的社会化の再検討を通じて」

【優秀ポスター】

勝又裕斗（東京大学）

「選挙における脆弱性と候補者の政策位置変更」

清水唯一朗（慶應義塾大学）

「選挙区の線引きはどのように行われたのか——近世・近代の連続と非連続から考える」

講評

2015 年度学会賞については、優秀論文は『選挙研究』31 巻 2 号掲載の独立論文 1 点が選ばれました。優秀報告は、2015 年 5 月に熊本市で開催された総会・研究会において発表された 32 報告から 2 点が、優秀ポスターは同じく 14 報告から 2 点が選ばれました。なお、優秀報告については、辞退がありましたので受賞は 1 点となっています。優秀論文は、現行選挙制度の課題である一票の格差是正について数理的分析を駆使して最適な議席配分法を提起しており、実践的意義の高いことが評価されました。優秀報告は、20 歳未満の非有権者の政治的関心の形成要因をサーベイデータ実験により綿密に分析していること、事前によく準備した明晰な発表であったことが評価されました。ポスター報告は、1 点は従来明らかでなかった明治期における選挙区形成過程を膨大な資料を使って解明しており、もう一点は政治家の政策位置と選挙との関係を実証的に分析した議員行動研究と評価されました。受賞 2 点とも図表や資料を工夫し聴衆の関心を引きつける努力がなされていることも評価されました。受賞者にはあらためて祝意を表しますとともに、今後の一層のご活躍を祈念いたします。また、選考に関わっていただいた委員の方々に御礼を申し上げます。

（2015 年度学会賞選考委員長 森脇俊雅）

[目次へ](#)

『選挙研究』 目次

第 32 卷 1 号

はじめに	前田幸男
〔特集〕 選挙運動と選挙地盤の政治史	
「院外青年」運動及び同運動出身代議士と選挙 —鈴木正吾と西岡竹次郎を事例として—	伊東久智
「熱海の山田」から「静岡 2 区の山田」をめざして —保守政治家・山田弥一の模索と挫折—	小宮一夫
「阿波戦争」に関する一考察 —第 10 回参議院選挙徳島地方区における保守系候補の対立を中心に—	竹内 桂
〔独立論文〕	
投票環境と投票率	松林哲也
〔2015 年度研究会講演記録〕	
政治学者と政治家のあいだで —決断・対応・目標の政治学—	蒲島郁夫
〔書評〕	
近藤則夫著『現代インド政治—多様性の中の民主主義』	北川将之
吉田 徹編著『野党とは何か—組織改革と政権交代の比較政治』	渡辺容一郎
岩崎正洋著『比較政治学入門』	
粕谷祐子著『比較政治学』	古賀光生
辻 陽 著『戦後日本地方政治史論—二元代表制の立体的分析』	馬渡 剛
平野 浩著『有権者の選択—日本における政党政治と代表制民主主義の行方』	村上 剛
岩本 裕著『世論調査とは何だろうか』	谷藤悦史
逢坂 巖著『マスメディアと政治』	三浦麻子
日本選挙学会年報『選挙研究』執筆要領・論文投稿要領・執筆の手引き 英文要約 執筆者一覧・編集後記	

第 32 卷 2 号

はじめに

前田幸男

【特集】民族独立とレファレンダム

- 2016 年 EU レファレンダムの一考察：保守主義とイングランド性の見地から 渡辺容一郎
 議会における与野党対決の代替としての台湾の『公民投票』 浅野和生・游清鑫
 民族の独立とレファレンダム—クリミアの事例— 末澤恵美

【学会賞 2015 優秀報告論文】

- 「新しい有権者」における政治関心の形成メカニズム：政治的社会化の再検討を通じて
 秦 正樹

【2016 年度研究会シンポジウム記録 18 歳選挙権実施を前にして—その影響と対応—】

- 18 歳選挙権と主権者教育を巡る問題 牧之内隆久
 18 歳選挙権をめぐる各政党の分析と若者へのアプローチ 五嶋 清
 高校生への主権者教育の実践 大塚功祐
 18 歳選挙権と政治教育—選挙教育における現状と課題の考察— 林 大介

【書評論文】

- 与党審査の制度化とその源流
 —奥健太郎・河野康子編『自民党政治の源流』と研究の進展に向けて— 川人貞史

【書評】

- 待鳥聡史著 『代議制民主主義 - 「民意」と「政治家」を問い直す』 竹中治堅
 三浦まり編著 『日本の女性議員—どうすればふえるのか』 松田なつ
 渡辺将人著 『現代アメリカ選挙の変貌—アウトリーチ・政党・デモクラシー』 小野恵子
 西川賢著 『分極化するアメリカとその起源 - 共和党中道路線の盛衰』 吉野 孝
 宮本太郎・山口二郎著 『リアル・デモクラシー ポスト「日本型利益政治」の構想』
 久保慶明
 砂原庸介著 『民主主義の条件』 辻 由希
 飯田健・松林哲也・大村華子著 『政治行動論 -- 有権者は政治を変えられるのか』
 三輪洋文
 増山幹高著 『立法と権力分立』 久保浩樹
 山田真裕著 『政治参加と民主政治』 塩沢健一
 谷口将紀著 『政治とマスメディア』 細貝 亮
 白鳥浩編著 『二〇一二年衆院選 政権奪還選挙：民主党はなぜ敗れたのか』 鶴谷将彦

<資料>最近の選挙結果

三船毅・前田幸男・日野愛郎・中井遼

日本選挙学会賞要綱

日本選挙学会賞受賞者および講評

2014 年度第 1 回海外学会報告奨励費受領者による英文雑誌掲載の報告

2016 年度日本選挙学会総会・研究会日程

日本選挙学会会則・規定・役員・資料

日本選挙学会年報『選挙研究』執筆要領・論文投稿要領・執筆の手引

英文要約

執筆者一覧・編集後記

[目次へ](#)

各委員会からのお知らせ

【企画委員会から】

2017年度の日本選挙学会の総会・研究会は、2017年5月20日（土）、21日（日）に香川県高松市の香川大学（大会運営委員長・堤英敬理事）において開催されます。

研究会における、共通論題のテーマとしては、2016年参院選を取り上げるというのが、当初の予定でした。しかし、2016年11月の米大統領選でのトランプ候補の当選という結果を受け、当初は比較部会のひとつとして計画していた部分を、もうひとつの共通論題とすることにしました。こちらでは、2016年米大統領選挙のほか、2016年6月に実施された、いわゆる‘Brexit’をめぐるイギリス国民投票や、欧州で台頭する極右勢力の台頭に関する分析などに関する報告が含まれています。当初、共通論題として予定していた2016年参院選に関しても、共通論題とし、今回は2本の共通論題を設定することにしました。

そのほか、9の分科会およびポスターセッションを設定します。一昨年、70年ぶりに選挙権年齢が引き下げられ、昨年6月から18歳選挙権が施行されました。18歳選挙権施行直前の2016年研究会においては、共通論題として取り上げられ、選挙管理、学校教育、マスコミなど各界で、どのように対応しているか、という経過を中心に報告が行われました。2017年研究会においてもそのフォローアップの部会を設け、地域の選挙管理委員会などと連携して活動した会員に事例報告を行っていただき、今後の課題について議論したいと考えています。そのほか、制度部会として、欧州における選挙制度改革や直接民主制などの報告を予定しております。社会心理部会では、イデオロギー計量に関するテーマを設定し、有権者のイデオロギー測定に関する報告を予定しております。地方部会では地方選挙の事例研究などに関する報告が予定されています。方法論部会では、シミュレーション・モデリングと選挙研究の観点からの報告を予定しております。政党部会では政党の凝集性に関するテーマや野党協力に関するテーマが予定されています。

いずれもふるってご参加をいただければと存じます。

報告概要のアップロード期間：2017/2/16～3/1（0：00）

報告論文のアップロード期間：2017/4/16～5/1（0：00）

報告論文のアーカイブ：2017年8月中旬（15日ころ）

それでは、会員の皆様と香川大学でお会いすることを楽しみにしております。

（2017年度大会企画委員長 井田正道）

【年報編集委員会から】

2016年度刊行の『選挙研究』第32巻第1号では、「選挙運動と選挙地盤の政治史」と題する特集を組み3本の論文を掲載しました。その他は、独立論文1本と2015年度選挙学会講演の内容を掲載しています。第2号は、「民族独立とレファレンダム」の特集テーマで3本の論文を掲載した他、2015年度学会賞優秀報告論文1本と書評論文1本、そして2016年度研究会シンポジウム記録の4報告を掲載しました。論文の投稿・寄稿をして下さった方々、編集委員会・査読委員会・企画委員会・事務局の皆様、そして木鐸社に御礼申し上げます。また編集作業の遅延で第2号をお届けする時期が例年より遅れましたことをお詫び申し上げます。なお公募論文は第1号で2本（特集論文1本と独立論文1本）を掲載できましたが、第32巻で掲載できたのはこの2本だけでした。今後投稿本数や採択本数などの基礎的な情報は毎年の総会時に皆様に報告できるようにする予定です。学会誌『選挙研究』は皆様の研究を発表するための媒体として運営されております。編集委員会一同は皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

（年報第32巻担当編集委員長 前田幸男）

第33巻編集委員会では、現在までに第1巻の特集を「2016年アメリカ大統領選挙」とすることに決めた。これ以外にも特集テーマの候補は幾つかあったが、「2016年アメリカ大統領選挙」1つにさせていただきました。過去の『選挙研究』では特集が複数設定されることもありましたが、しかし、特集に割く頁数が多くなると、掲載できる投稿論文の数に制約が生じます。それと同時に、投稿論文の数がどの程度になるかを予測することも困難であります。したがって、投稿論文の数が少ないと予想される状況では、ジレンマに陥ることになります。

ここ数年『選挙研究』の編集で困っていることは、投稿論文が少ないことでもあります。なぜ少ないかという問題の原因を特定することは困難ではありますが、今後は原因究明も必要であると考えております。編集委員会が一方的に原因を考えるのではなく、会員などから意見を募るのも重要だと考えております。また、特集論文、投稿論文、書評だけでなく、『選挙研究』に掲載可能なそれ以外の形式も模索することの必要性もあるでしょう。

第2号に関しての特集は、2017年研究会の共通論題などのテーマを観ながら決めていきたいと編集委員会では考えております。

（年報第33巻担当編集委員長 三船 毅）

※※※投稿資格と投稿方法※※※

1. 投稿資格：

論文を投稿できるのは、投稿時点において年会費を完納している日本選挙学会の正会員です。論文を投稿するにあたっては、学会ウェブ上のMY JAESで会費納入状況を確認して下さい。なお、会費納入状況は月末締めで更新されますことにご留意下さい。投稿の詳細につきましては、学会ウェブ上に掲載してある『選挙研究』執筆要領及び論文投稿要領（<http://www.jaesnet.org/download/rules/JJES20151212.pdf>）をご確認ください。

2. 投稿方法：

投稿は随時受け付けております。学会ウェブ（<http://www.jaesnet.org/index.html>）上のMY JAESから論文のPDFファイルをアップロードしてください。投稿方法の詳細につきましては、同じく学会ウェブにあります論文投稿システムマニュアル（投稿者用）をご参照ください。年報編集委員会より投稿受理の連絡を投稿者にするとともに、査読委員会に投稿論文を送付します。投稿後、時間が経過しても（2週間程度）原稿受理の連絡がない場合、改めて連絡をいただければ幸いです。

【査読委員会から】

本年度は、昨年度から導入されたネットによる投稿システムを使い、在外研究中の方もいらっしゃる査読委員会メンバーと細部にわたって相談しながら査読作業を進めてきました。なお投稿管理システムはまだ使い勝手の悪い点があるため修正を必要とする点があります。理事会で相談しながら可能な限り改訂していきたいと考えています。

5月の総会後に発足した今期の査読委員会では、12月下旬段階までに5本の査読手続きを完了しています（現在6本目が編集委員会から回ってきていますが、システム変更によって生じた不備があったため個別の対応を行っており、まだ査読に入れていません）。修正後の再査読をした結果、掲載が決まったものもあります。

前理事会時代に、浅野査読委員長と前田編集委員長によって作成された『『選挙研究』の編集・査読スケジュールについて』と題する文書は、編集と査読に関わるおおよその日程を把握する際に役立ちますので、今後投稿を計画されている方は、ぜひご参照ください。まだ査読作業は続きますので、もし査読者の引き受けをお願いした場合はぜひともご快諾くださるようお願い申し上げます。

（2016年度査読委員長 小西徳應）

【国際化委員会から】

日本選挙学会では2013年度より、39歳以下の若手会員による海外学会における報告を促進するために海外学会報告奨励費を設けました。また、会員と外国の研究教育機関に所属する研究者の間の国際共同研究を促進するために国際共同研究奨励費を設けました。

海外学会報告奨励費の募集は、学会の開催時期に応じて3回行っています。選考委員会における厳正な審査を経て、以下の会員が受領者として選定されました。

【海外学会報告奨励費】

2015年度 第3回（3月1日～6月30日）

受領者：なし

2016年度 第1回（7月1日～10月31日）

受領者：新川 匠郎 会員（ベルリン自由大学）

報告学会：European Consortium for Political Research

報告論題：A set theoretical analysis of oversized coalitions in Central and Eastern Europe

2016年度 第2回（11月1日～2月28日）

受領者：なし

【国際共同研究奨励費】

2016年度受領者：なし

なお、海外学会報告奨励費の受領者には、『選挙研究』、または海外の学術誌で、成果を
発表することが義務付けられています。また、国際共同研究奨励費の受領者には、『選挙
研究』、または研究会において、成果を発表することが義務付けられています。

(国際化委員長 安野智子)

理事会議事録

日本選挙学会 2015年度第3回理事会議事録

日 時：2015年12月12日（土） 14時00分～

場 所：日本大学法学部4号館第4会議室

出席者：岩淵，岩崎事務局長，浅野（和），池谷，今井，奥，河崎，品田，堤，中井，名取，吉野，前田，森，森脇，山田（以上理事），荒井，岡田，小林，三澤，宮脇（以上幹事）

議題

◎確認事項（前回議事録）

2015年9月12日開催の2015年度第2回理事会議事録が確認された。

◎報告事項

1. 日本選挙学会公選理事候補者選出選挙について

三船毅選挙管理委員長より（欠席のため、岩崎事務局長代読），2015年度日本選挙学会公選理事候補者選出選挙の結果について報告があった。また岩崎事務局長より，当選者の承諾状況についての報告があった。

2. 各委員会の活動状況について

■ 企画委員会

浅野和生 2016年度研究大会企画委員長より，2016年度研究会の企画趣旨および企画内容について報告があった。

■ 編集委員会

河崎健年報編集委員長（第31巻担当）より，第31巻2号の編集状況について報告があった。

前田幸男年報編集委員長（第32巻担当）より，第32巻1号の編集状況，及び第2号の編集方針について報告があった。

■ 査読委員会

浅野正彦 2015年度査読委員長より，（欠席のため岩崎事務局長代読）新しい論文投稿システムの修正についての報告があった。

■ 学会賞選考委員会

森脇俊雅学会賞選考委員長より，2015年度学会賞の選考過程についての説明があり，2015年度日本選挙学会賞の選考結果の報告があった。

■ 国際化委員会

日野愛郎国際化委員長より（欠席のため岩崎事務局長代読），第2回海外学会報

告奨励費の審査状況と受領者を決定した旨が報告された。

■選挙管理委員会

1の報告事項と同じ。

3. 2015年度総会・研究会の開催について（熊本@崇城大学ホール）

今井亮佑 2015年研究大会委員長より、2015年度総会・研究会の報告と御礼の挨拶があった。

4. 2016年度総会・研究会の開催について（日本大学）

吉野篤 2016年研究大会委員長より、2016年度総会・研究会の準備状況について報告があった。

5. 2017年度総会・研究会の開催について（香川大学）

堤英敬理事より、2017年度総会・研究会の準備状況について報告があった。

6. 2015年度日本選挙学会賞について

2にある報告事項と同じ。

7. その他

◎審議事項

8. 2016年度日本選挙学会賞要綱について

学会賞要綱の検討がなされ、該当する年度2016年と修正することについて承認された。

9. その他

(1) 入退会申込者について

新規入会者5名について承認した。

選挙学会の会員が今回の理事会で499名になることが報告された

(2) その他

以 上

日本選挙学会
2015年度第4回理事会議事録

日時：2015年3月19日（土） 10時30分～12時00分

場所：日本大学法学部 4号館第4会議室

出席者：岩淵理事長、岩崎事務局長、浅野（和）、池谷、奥、河崎、小西、玉井、谷口、堤、日野、前田、三船、山田、吉野、オブザーバー：浅野（正）、幹事：荒井、岡田、三澤、宮脇

議題

◎ 確認事項（前回議事録）

◎ 報告事項

1. 各委員会の活動状況について

■ 企画委員会

浅野和生 2016年度研究会企画委員長から、2016年度研究会企画の準備状況について報告があった。

■ 年報編集委員会

河崎健年報編集委員長（第31巻担当）より、第31巻2号の刊行について報告があった。

前田幸男年報編集委員長（第32巻担当）より、第32巻1号の編集に向けて準備を進めている旨について報告があった。また、査読システムの運用についての検討を行う旨が報告された。

■ 選挙管理委員会

三船毅選挙管理委員長より、日本選挙学会公選理事候補者選出選挙の結果について報告があった。

■ 査読委員会

浅野正彦査読委員長より、投稿論文の査読状況について報告があった。また査読システムの件など次年度の理事会に引き継ぎを行うようにする旨の報告があった。

■ 国際化委員会

日野愛郎国際化委員長より、本年度の活動について報告があった。

■ 学会賞選考委員会

特になし。

2. 2016 年度総会・研究会の開催について（日本大学）

吉野篤 2016 年度総会・研究会委員長から、同大会の準備状況について報告があった。

3. 2017 年度総会・研究会の開催について（香川大学）

堤英敬理事から 2017 年度総会・研究会の準備状況についての説明がなされた。

4. ニュースレターについて

岩崎事務局長より、2016 年 2 月にニュースレターが刊行された旨の報告があった。

5. 2015 年度日本選挙学会賞について

1 にある報告事項と同じ。

6. 次期推薦理事・監査候補について

岩崎事務局長より、次期推薦理事・監査候補者について報告があった。

◎審議事項

7. 2016 年度査読委員長

岩崎事務局長より、次期査読委員会委員長として小西徳應理事が推薦され、同件について承認された。

8. 学会賞選考委員長

岩崎事務局長より、学会賞要綱 3 の 1 に基づき、学会賞選考委員長として西澤由隆元理事長が推薦され、同件について承認された。

9. 入退会について

承認されている会員は 3 名。退会者 5 名。

会員数は今回の理事会での承認を受けて 501 名になることが報告された。

日本選挙学会
2015年度第5回理事会/2016年度第1回理事会議事録

日 時：2016年5月14日（土） 12時05分～13時00分
場 所：日本大学 法学部4号館会議室

2015年度理事会出席者：理事長：岩淵、事務局長：岩崎、理事：浅野（和）、池谷、奥、河崎、小西、品田、建林、谷口、玉井、堤、中井、名取、前田、三船、森、森脇、山田、吉野、監査：竹下、安野 オブザーバー：浅野（正）、西澤、幹事：荒井、岡田、小林、三澤、宮脇

2016年度理事会出席者：理事長：河野、事務局長：岩崎、理事：井田、遠藤、岡田、河村、川戸、坂本、竹中、西川、湯浅、幹事：荒井、岡田、小林、三澤、横山

議題に先立って、岩淵理事長より2016年度の理事会と2015年度の理事会を合同の理事会を行う理由についての説明があった。

また、岩崎事務局長より、西澤2016年度学会賞選考委員長がオブザーバーとして出席する旨とその理由について説明があった。

議題

◎ 確認事項（前回議事録）

2015年第3回目の議事録が確定した。2015年第4回の議事録の確認がされた。

◎ 報告事項

1. 各委員会の活動状況について

■ 企画委員会

浅野和生 2016年度企画委員会より、2016年度の研究大会についての報告があった。（大会直前での報告辞退者についての説明）。

■ 年報編集委員会

前田幸男 2016年度年報編集委員長より『選挙研究』第32巻1号、2号の状況についての報告があった。

査読と論文の投稿に関する現状について報告があった。第32巻2号の編集に関しては、共通論題（掲載するかについて）の取り扱いの検討を行っていることが報告された。同時に研究大会で報告されたものの、刊行されていないものについての洗い出しをしている件についての説明があった。

■ 査読委員会

浅野（正）2016年度査読委員長より査読に関する報告があった。

2. 2016 年度総会・研究会について（日本大学）

岩崎事務局長より、11 時の時点で 93 名の出席である旨。懇親会 43 名の出席である旨について説明があった。

吉野篤 2016 年度研究大会委員長より大会の開催状況についての報告があった。

3. 2017 年度総会・研究会の開催について（香川大学）

堤先生より 2017 年度大会の準備に関する報告があった。

4. 2015 年度決算・監査報告について

岩崎事務局長より決算・予算の説明がなされた。2015 年度の年会費の増加については、理事選挙の有無が影響を与えているのではと説明がされた。支出に関しては、2015 年度研究会費が計上されていないが、熊本の事務手続きの 50 万円を 2014 年度に振り込んでいるので、2015 年度には支出していないことが説明された。また、熊本県から資金の支援があったので、2015 年度に追加支出を行わずに乗り切ったという経緯がある旨について説明があった。文具費、雑費：開催校が存在しないので、そのため雑費負担を事務局が負ったという経緯が説明された。

以上の説明を踏まえた上で、竹下監事より収入・支出ともに適正であったことが説明され、監査報告が承認された。

◎ 審議事項

5. 2016 年度予算案について

岩崎正洋事務局長より 2016 年度の予算案についての以下の通り、説明があった。

収入に関しては、今後とも櫻田會からの助成が見込めるとの報告がなされた。

支出に関しては、これまでの委員会活動費の執行状況を鑑み、活動予算の削減が提案された。

また、全体として、学会財政についての懸念が示されたが、2016 年度予算が承認された。

6. その他

(1) 入退会申込者について

岩崎事務局長より、3 年間未納退会者が合計で 13 名にのぼることについて説明があった。また、希望退会が 2 名いる旨が報告された。そのうち 1 名は逝去された。合計 15 名の退会になることが報告され、承認された。

新規会員の 4 名はメールにて承認。審査中 2 名。審査中の学部生である。学生会員としての入会をしたいとのお願い。学生会員に関する資料と会則に関する説明。会則の第 5 条、会費規定を鑑み、学生会員としての入会が承認されたが、報告などについては整理しないといけないとの指摘がなされる。

名取理事より、学生会員数が増加した場合、2000 円で 2 冊送ることへの懸念が示された。また、理事選挙権については検討した方がよいのではないかと提案される。

議論の結果、現時点では中島さんの入会を認めるものの、報告・投稿・理事

選挙の権利は有しないものとして、承認された。

岩崎事務局長より、会員合計で 492 名、内訳が正会員 490 名、法人会員 1 団体、学生会員 1 名であることが報告された。

(2) その他

小林幹事より、J ステージの公開についての説明がなされた。公開にあたっては、英文タイトル、アブストラクト、透明テキストファイル、PDF が必要であり、調整中が済み次第、公開する予定であることが報告された。

河野理事長より、2016 年—2017 年度役員一覧についての報告とともに、学会将来構想検討委員会を設置する提案がなされ、承認された。

また、河野理事長より、2018 年の開催校は拓殖大学の予定であるとの説明がなされ、承認された

以上

日本選挙学会
2016年度第2回理事会議事録

日 時： 2016年9月10日（土） 15時～17時40分
場 所： 慶應義塾大学三田キャンパス 南館4F会議室

出席者： 理事長：河野、事務局長：岩崎、理事：池谷、井田、遠藤、岡田（浩）、奥、河崎、川戸、河村、小西、坂本、品田、竹中、堤、名取、西川、前田、三船、森（正）、森（裕）山田、監事：粕谷、高安、幹事：荒井、岡田（陽）、三澤、横山

議題

◎確認事項（前回議事録、総会議事録）

◎報告事項

1. 各委員会の活動状況について

■ 企画委員会事項

井田正道 2017年度企画委員長より、当該年度の企画委員が報告された。公募状況については、計14件の応募があり、企画委員会での審議の結果、10件を口頭報告、4件をポスターとすることが決定されたとの報告があった。またセッション数は分科会を9～11程度、共通論題のテーマは「2016年参議院選挙」とし、ポスターの追加募集を行いたいとの発言があった。

竹中佳彦 2018年度企画委員長より、当該年度の企画委員が報告された。

■ 編集委員会事項

前田幸男編集委員長（第32巻担当）より、『選挙研究』第32巻第1号の発刊とページ数減による販売価格の下落が報告された。続いて、第32巻第2号の状況について、配布資料の通り説明があった。

三船毅編集委員長（第33巻担当）より、当該巻の編集委員候補が報告され、承認された。

■ 選挙管理委員会事項

坂本健蔵選挙管理委員長より、次回理事会で選挙管理委員を報告したいとの発言があった。

■ 査読委員会事項

小西徳應 2016年度査読委員長より、5月から9月までに4本の投稿があり、2本が掲載不可のD評価、1本がC評価、1本が査読中との報告があった。

■ 国際化委員会事項

安野智子国際化委員長より（欠席のため、岩崎事務局長代読）、2016年度海外学会報告奨励費はECPRでの報告を行う新川匠郎（ベルリン自由大学）に授与されたとの報告があった。

岩崎事務局長より、海外報告奨励費と国際共同研究奨励費に関して、過去の受賞

者の成果公表の現状について配布資料の通り報告があった。

名取理事より、成果公表に関して、国際化委員会が正確に把握し、規定を順守していない場合は奨励費の返還を求めることも検討しなければならないのではとの問題提起があった。

河野理事長より、規定は規定として返還は求められるが、いきなり厳しい対応は難しいのではとの懸念が示された。2013年度受賞者は、ルールの理解が浸透していなかったことを鑑み、2017年3月まで成果報告を猶予し、2014年度以降の受賞者は規定通りの運用とすることが提案され、承認された。

■ 学会賞選考委員会事項

岩崎事務局より、岩淵美克前理事長が学会選考委員会副委員長を引け受けることを了承したが、これは次年度の委員長職への昇格を前提としたものではないことが確認された。

■ 学会将来構想検討委員会

山田真裕学会将来構想検討委員長より、配布資料に基づき将来構想の方向性についての説明があった。委員の氏名に関しては非公表とし、委員会解散後に公表する予定であることが報告された。引き続き、具体的な提案が資料の通り示された。

提案1については、海外在住研究者の参加が容易になるとの理由が示されたと同時に、理事任期の変更を伴うことから規約改正の必要性が挙げられた。提案2については、懇親会から2次会という動きを前提すると、懇親会は安く抑えて、開催地の地元にお金を落とした方が良いとの理由が示された。提案3については、昨今の情勢を鑑みると5万円を支出できる団体は多くないのではとの理由が示された。提案4については、理事に限定してしまうと選べる人材が限られてしまうとの理由が示された。

名取良太学会将来構想検討委員長より、将来構想の前提として、財政状況の悪化から経常経費を抑え、会員を拡大していくことが重要との考えが示された。提案2は多くの会員にとって負担が大きいため、提案1は象徴的な改革として、提案3は会員拡大につながるため、提案4は特定の人物が就任し、人間関係の影響を色濃く受けてしまうために重要であるとの考えが示された。

河野理事長より、今後のスケジュールとして、今回の理事会での議論を受け、12月も継続して審議し、承認が得られたものは2017年度から運用を開始し、総会承認が必要なものは、総会に諮ることが示された。提案2に対しては、2018年度開催校の拓殖大学が準備を開始していることから、2019年からの適応が望ましいのではとの意向が示された。

それぞれの提案について、今後も継続して検討されていくことになった。

2. 2017年度総会・研究会について（香川大学）

堤英敬 2017年度研究大会委員長より、香川大学幸町キャンパスでの大会実施予定が報告された。

3. 2018年度総会・研究会について（拓殖大学）

浅野正彦 2018年度研究大会委員長より（欠席のため、岩崎事務局代読）、2018年度総会・研究会は5月12日（土）・13日（日）に拓殖大学文京キャンパスでの開催を予定しているとの報告があった。

4. 2016 年度海外学会報告奨励費および国際共同研究奨励費について

安野智子国際化委員長より（欠席のため、岩崎事務局長代読）、2016 年度海外学会報告奨励費は ECPR での報告を行う新川匠郎（ベルリン自由大学）に授与されたとの報告があった。

◎審議事項

5. 2019 年度総会・研究会の開催について

河野理事長より、2019 年度は地方開催となるが、2017 年度の総会で開催地を報告することから、2016 年 12 月の理事会で決定したいとの意向が示された。

6. その他

(1) 入退会申込者について

岩崎事務局長より、新規入会 4 名、退会者 1 名で合計 495 名となることが報告された。

(2) その他

名取理事より、科研費を受けていた『選挙研究』に関する監査が行われたことが報告され、欠けている書類や数値の修正があったが、特に大きな問題とはならなかったとの発言があった。

以 上

[目次へ](#)

事務局だより

【新入会員】

昨年度のニュース・レター発行後に入会申請が承認された方は、以下の13名です。

古屋 琢磨	(自由民主党本部)	岡野 裕元	(学習院大学大学院)
深谷 健	(武蔵野大学)	白方 雅哉	(慶應義塾大学大学院)
LADMIRAL Guillaume André	(京都大学)	山本 健太郎	(北海学園大学)
大森 翔子	(学習院大学大学院)	安宅 和人	(ヤフー株式会社)
中島 有希大	(慶應義塾大学)	岸下 大樹	(東京大学大学院)
佐々木 悠亮	(明治大学)	小倉 慶久	(関西大学)
陳 柏宇	(新潟県立大学)		

【退会会員】

昨年度のニュース・レター発行後、21名の会員が退会となりました。

【現在の会員数】

上記の異動で、2016年12月末日現在の会員数は、正会員496名、法人会員1団体、学生会員1名となっております。

【会費の納入について】

会費は郵便振替によって納入して頂いております。口座番号と会費は以下の通りです。

口座番号

振込先(加入者名)	:	日本選挙学会
口座番号	:	00170-2-31731

年会費

正会員(大学院生以上)	:	8,000円
法人会員	:	50,000円
準会員(学部学生のみ)	:	2,000円

過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡、研究会での報告、年報への投稿資格などが停止される場合もあります。理事選挙のある年の7月1日時点で当該年度の会費が未納の場合、理事選挙における選挙権・被選挙権が停止されます。会費は、滞納がある場合、滞納分から充当していきます。

2008年度から、滞納猶予期限3年を経過した会員の方には自動的に退会して頂くことになっております。2017年3月末日で3年間会費未納の場合、2016年度をもって自動退会扱いとなります。

なお、会費納入状況につきましては、学会HPの会員用ページ(MYJAES)でご確認下さい(<https://www.jaesnet.org/myjaes/index.php>)。

【2017 年度総会・研究会について】

2017 年度の総会・研究会は、2017 年 5 月 20 日（土）・21（日）の 2 日間、堤英敬大会運営委員長の下、香川大学幸町キャンパスで開催される予定です。

宿泊については、開催校では準備いたしませんので、各自でご手配下さい。懇親会は、20 日（土）に実施いたします。奮ってご参加下さい。

【学会ホームページについて】

2009 年に学会 HP の全面的なりリニューアルを行うとともに、会員用ページ（MYJAES）を導入しました。MYJAES では、会員情報（「所属」「役職」「メールアドレス」「生年」）・書類送付先（「郵便番号」「住所」「電話番号」「FAX 番号」（電話・FAX 番号の登録は任意））の変更、会費納入状況の確認を、会員ご自身の手で行って頂くことができますので、是非ご活用下さい。特に、書類送付先については、誤配・遅配などの原因となりますので、会員各自で随時更新して頂きますようお願い申し上げます。また、研究会での報告の応募、報告概要や論文のダウンロード・アップロード、『選挙研究』の論文投稿を学会 HP で行うようになっております。

※※※事務局からのお願い※※※

事務局からの各種ご案内も、学会 HP やメールを活用して行うようになっておりますが、登録されているメールアドレスに誤りがある場合、配信不能となってしまいます。MYJAES にて、ご自身のメールアドレスに誤りがないか、ご確認頂きますようお願い申し上げます。

【『選挙研究』の電子アーカイブ化・電子ジャーナル化について】

すでにご案内したとおり、日本選挙学会年報『選挙研究』第 1 巻から第 24 巻第 1 号については、電子アーカイブ化が済み、独立行政法人・科学技術振興機構（JST）の J-Stage（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaes1986/-char/ja/>）で公開されております（2012 年度より J-Stage に掲載移行となりました）。是非ご活用下さい。

なお、『選挙研究』に掲載される論文等は、発行から 2 年が経過した後、原則として電子化されます。ご執筆頂く方々には、この旨ご了解頂きますよう、お願い申し上げます。

何かご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局について】

日本選挙学会の事務局は、理事長の所属する慶應義塾大学に所在しておりますが、事務局長・幹事は以下の6名が務めております。学会に関する各種お問い合わせは、事務局長までお願いいたします。

事務局長：岩崎 正洋（日本大学法学部）

〒101-8375 東京都千代田区三崎町 2-3-1

Tel：03-5275-8501（代表）

E-mail：office@jaesnet.org

幹 事：荒井 祐介（日本大学）
岡田 陽介（立教大学）
小林 哲郎（香港城市大学）
三澤 真明（日本大学）
横山 智哉（一橋大学）

[目次へ](#)